

## オーストラリア便り 1

G'day<sup>1</sup> from Down Under<sup>2</sup> 1

ウォータース 雅代

WATERS Masayo

---

**Abstract:** This is my third time to live in the land Down Under, Australia for any good length of time. This time we have already celebrated our second Christmas here in Nambucca Heads. The first part of this essay is an introduction of Nambucca Heads, a small town by the sea. You are not able to recognize many Asian residents or Asian tourists here compared to big cities like Sydney, Gold Coast and so on. We could be the only family that uses the Japanese language daily at home in this area. Nambucca came from an aboriginal word that means “entrance to the waters”. As the name tells you it is a beautiful beach side small town. Great numbers of holiday makers from Sydney or from inland of NSW State eager for the beach-side life style come here to indulge themselves with the beautiful sunny beaches. Locals also love the beauty of its beaches. Nambucca Heads is a place with wonderful water views and I think you would love it too. The second part of the essay is what I have been thinking about my younger son who has struggled to adapt to his new environment, living in English. He was born and grew up in Japan. As soon as his school life in Australia started, he was aware that his English was too poor to handle just ordinary things in school. Every morning when we dropped him at the school gate, I found myself having a very clear image of him walking into a jungle of the Amazon. There could be a lot of hidden unknown evil monsters waiting to get my unarmed vulnerable boy. He could however manage some subjects. He told us that for most subjects all he could do was just sit patiently in the classes, not understanding a large percentage of the class. I admired and appreciated his courage. Fortunately there was one subject that he had in his first year in his school that seemed to bring him some comfort. That was the Japanese class with Australian students. That gave my son a great sense of superiority and confidence. The Australian Japanese teacher has been so kind to him and regularly got him to help her Japanese classes. His English has never stopped improving since then.

---

**Keywords:** Australia, NSW, Nambucca Heads, Sydney, Gold Coast, the Amazon

オーストラリア、NSW（ニューサウスウェールズ）州、ナンバカヘッズ、シドニー、ゴールドコースト、アマゾン

---

## はじめに

オーストラリアに住むのは今回が3回目である。Nambucca Heads<sup>3</sup> というかなり限定された地域からではあるが、ここで体験した事や日本を離れて感じた事考える事等、あれこれ書かせていただく。

### 1-1 Nambucca Heads

オーストラリア NSW 州の中部北海岸沿いにある美しい小さな海辺の町、地図でみるとシドニーとゴールドコーストの真ん中より少し北よりの Nambucca Heads<sup>4</sup> という海沿いの小さな町の郊外に家族と住んで2年目になる。シドニーまで車で6時間程度、ゴールドコーストまでは4時間ほどに位置する。2006年実施の人口調査結果<sup>5</sup>では人口6137人、総人口の82.4パーセントが Nambucca Shire という行政区画内で生まれた住人であると発表している。

シドニーやゴールドコーストなどの都市部では、石を投げればアジア人に当たるといほどアジア系住民やアジア各国からの観光客が多い。しかしここでは、なかなかお目にかからない。息子の公立学校に、お母さんが日本人らしい人の娘さんが通っているそうだが、その生徒は日本語を全く話さないという風に聞いている。日本語を家庭で話す日本人というのは、この界限では私達だけなのかもしれない。

オーストラリア人が bush<sup>6</sup> と呼ぶこの国特有の硬く乾いた粘土質の土壤に蔓延る、ユーカリ、ソテツやシダ類、パーム椰子の木や蔦など、その他大小さまざまな雑木や雑草で形成された森林を切り開き点在する住宅地を高速道路が繋ぐ。内陸へと続く州立森林公園を背に、海に面した風光明媚で静かな田舎町<sup>7</sup>が、ホリデーシーズンには一気に賑わう。

シドニーは世界的にもよく知られた美しい海辺の都市だが、都会に住む人は田舎に癒しを求めるのであろうか。シドニーからも、そして海から離れた内陸部からも、多くの holiday maker がやってくる。オーストラリアではキャラバン (caravan) と呼ぶ大型キャンピングカーで、この町にいくつかあるキャラバン専用のキャンプ場は予約客で込み合う。

水辺に並ぶ宿泊施設でも、いくつもある Nambucca の美しいビーチを楽しむためにやってくる家族連れ等で込み合う。バルコニーに設置した椅子に色とりどりのビーチタオルを掛けて、鮮やかなアクセントを景観に与えている。窓を閉め切り眠っていたような小規模なホテル等が、遠目にも息を吹き返したかのように見える。普段は閑古鳥が鳴いているような地元のレストランでも、ホリデー期間は書き入れ時となる。

Nambucca とは原住民の言葉で英訳すると “entrance to the waters”<sup>8</sup> だそうで、水辺への入り口という意味だろうか。その名の通り、Nambucca River が緩やかに白い砂浜と遠浅の海へと流れ込む河口付近には、いくつもの中州がありさらに入江へとつながる。中州を取り囲む静かな水は、変化する空と雲を鏡のように映し出し、時にこの世のものとは思えないような幻

想的な美しさを見せてくれる。

地元の住民もよく海を見に行く。起伏が多いこの町に点在する高台から、曲がりくねって変化に富んだ海辺が見え、耳を澄ませば海鳴りが聴こえる。それでもやはり、浜辺で海と向かい合う時間は、いつでも本当に特別で素晴らしい。

## 1-2 英語と息子

日本で生まれ育った息子は、転校当初英語がよく分らなかった。体育等の実技を含む学科での問題はさほど無かったが、それ以外の教科は先生の言葉が分からなくて辛かったようだ。授業中はほとんど何も理解できず、じっと席に座っているだけだと言っていた。それでも毎日学校に行き、疲れ切った表情とは裏腹に、楽しかったと答えて迎えの車に乗ってくる息子を、私は心の底から、すごいと思っていた。

校内で困った事態に出会ったとしても、親の手を借りることはできない。先生に助けを求めるにしても、何をどう言ったらいいのか分らない。もしかしたら全くの誤解ばかりしているかもしれない学校生活で、どの程度周りとのコミュニケーションが取れているのかさえ分らない状態である、という自覚を息子は持っていた。朝の車を降りたら、もうそこからは本当に一人で、今日も君は未知の世界へ向かっていってくれるのかと、感謝せずにはいられなかった。魑魅魍魎の潜むアマゾンのジャングルへ、しかも丸腰で行く息子を見送る時の私はきっとこんな気持ちかと思い、息子のその勇気が何より有難かった。心配性で、家族に言わせると無駄に想像力豊かな母親としては、去っていく息子の背中を見ては、あれこれ考えないではいられない。英語がきちんと理解できない為に、学校で孤独を味わい、誤解がもとで自信を失い、引きこもりへ発展していく危機に瀕していたかもしれない。背は大きくとも未だ大人とは言えない。精神的にはまだまだ発達途上で、虚勢を張っては脆弱な自己を守ろうとするが、中身は繊細で傷つきやすいティーンエイジャーである。

息子が通う公立校では、外国語として日本語の授業がある。転校当初は息子も、学年で必修科目の日本語授業を受けていた。学年が上がった今では、自分の授業がない空き時間に週に一度、先生の助手をしている。先生は私と同年代のオーストラリア人女性で、大変フレンドリーな方である。彼女は私達から生の日本語が聞ける事をとても喜んで、本当に温かく受け入れて下さっている。息子がこの地で成長していく為に必要な大きな力の一つになったのは、実のところ、当地の学校生活開始に伴い体験した、オーストラリア人にとって外国語の日本語授業であった。息子にすれば、こちらの日本語の授業等お茶の子さいさいである。自分の日本語への明らかな優越感が、大きな励みになったのだと思う。

いつの間にか、校門前で息子に手を振り近づいてきて話しながら、一緒にキャンパスを歩いていく生徒達を毎朝見るようになった。息子の表情には、一つも二つも山を越えたような、余裕とも思えるものが見え隠れするようになった。ジャングルへ行く悲壮感を帯びた息子のイメ

ージを私の心に投影し、息苦しくなる事も今は無くなった。

ある日の夕食後の事である。かつて私が抱いていた、唇を真一文字に結んで何やら決意したような顔で、鬱蒼としたジャングルへと入っていく息子のイメージの事などを、そのまま話してみた。笑われるかと思っていたが、夫も息子も口を挟まず最後まで聞いていた。「どう思う？」と尋ねると、息子は少しの沈黙の後、頬をやや緩ませて、「その通り。」と答えると食器を片づけ始めた。あまりにも素直な答えに、私は少なからず驚いた。

息子の英語は上達し続けている。今では友人達とのメール等も特に問題なく英語でしている。しかし面倒だと言って、辞書を引くという語学学習の基本的なことを怠けている。メールの途中で何度も私に綴りを聞いてくる。辞書を引くより私に聞いたほうが早いのは確かだ。電子辞典と PC のスペルチェッカー依存症のような私でも、息子が使う語彙程度はほぼ綴りを言うことができる。何かと生意気な口をききたがる年齢の息子だが、それに関しては「すごい。」と答えてくれる。もちろん私が「この単語は、確か中学で暗記した時から覚えている。すごい？」と誘導するからであるのだが…。ただ息子が言う「すごい」の意味は、そんなに何十年も前にその単語を覚えたという事を未だに記憶している、という事らしい。しかし、お蔭で私の母としての面目も立っているような気がするので、これはこれで有難いのかも。

## 註

<sup>1</sup> g'day [gdéi | gdái][グデイ | グダイ][慣用句] こんにちは。よう。Aussie English の代表格で Good Day の略。 <http://engslang.blogspot.com.au/2009/09/gday.html> 参照

<sup>2</sup> オーストラリア[ニュージーランド] (英国から見て)(地球の)正反対側に、地球の下のほうにあるのでこう呼ばれるようになった。

<sup>3</sup> 日本語ではナンブカ、ナンブッカとカタカナ表記されている。実際は cup, または uncle, umbrella 等の u と同様にナンバッカまたはナンバカと発音されている。Heads は英和辞典では湾頭とか川の注ぎ込む湖頭とある。

<sup>4</sup> [http://en.wikipedia.org/wiki/Nambucca\\_Heads,\\_New\\_South\\_Wales](http://en.wikipedia.org/wiki/Nambucca_Heads,_New_South_Wales) 参照

<sup>5</sup> 同上

<sup>6</sup> ブッシュというと灌木、低木の茂みという和訳があるが、オーストラリアのブッシュは広大な国土内に異なる地理的条件や気候により、同じ州内でも異なる。ここ Nambucca でも海沿いと海から離れた場所では異なる樹木がある。カンガルーやハリモグラ、蛇やゴアナなどの爬虫類、カエルなどの両生類それに昆虫やクモ、ダニ、ヒルなど数えきれないほどのオーストラリア固有の動植物の生息地でもある。Australian bush で検索すると多様な画像がご覧いただける。

<sup>7</sup> Nambucca Heads で検索し画像をぜひご覧いただきたい。

<sup>8</sup> 註 3 と同様。